

1	音楽研究会			部会記録	
日時	平成31年1月9日				
部会名	歌唱部会			主任	原山史子（三ツ境小）
参加数	38名	司会	原山史子（三ツ境小）	記録	南澤香里（鴨居小）
研究内容	研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方				
	歌唱部会テーマ：子どもが、歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動				
	1 講師 大塚 正夫先生				
	歌唱指導研修 「合唱クラブ及び共通教材の具体的な指導法」				
	丸山台小合唱クラブのご指導を通しての歌唱指導研修				
	○「日本の曲メドレー」				
	・一人ひとりが自分の目標「こうなりたい姿」「できている部分、伸ばしたい部分」のイメージを持つことで成長する。				
	・全員でそろって切ると響きが残る。				
	・スラーはきちんとつなげて丁寧に歌い、切りすぎない。息を無駄にしないように。				
	○「W i s h」				
	・「う」の発音 前歯の間は指一本開け、のども開けて歌う。せまくならないようにする。				
	・発音について「鼻濁音」～♪ねがいが 音読などでチェックする				
	・音が低くなると響きを落とさない～♪ほしにねがいが				
	・3連符・・・歌詞を強調しているところなのではっきりと強く歌う。				
	・パートごとのバランスは人数で調整する。追いかけるところは後のパートの方の音を大きくする。				
	・前向きな気持ちを込めるところは拍通りでなく、少しテンポを早て歌う～♪生きてる				
	↓ここから15：35～				
	○「あすという日が」				
	・二重母音は口の開け方に気をつけて歌う。真っ青な空を想像して歌う～♪あお				
	・どこを強調するか考えて歌う。冒頭の部分は、「ごらん」に気持ちをのせて歌う。				
	・「ん」の発音は、口を開けたまま歌う。				
	・クレシェンドの部分は、小さく入り、響きで大きく広げていく。～♪すばらしい				

☆研修会にて（１６：０５～）

- ・丸山台小合唱クラブは、男子が多く素晴らしい。
- ・詩が伝わるように歌う＝合唱である。言葉を読ませる、教師自身も読むようにする。

○「旅立ちの日に」

- ・フレーズの中で、音は下がっても響きが落ちないように気をつけて歌う。～♪なかに
- ・フレーズの頭をはっきり～♪やまなみ → ～♪いやまなみ～♪んなつかしい
- ・音が上がる直前の言葉も大事に歌う～♪おおぞらに

○「冬げしき」

- ・楽器の演奏と歌唱を同時に学ぶようにする。

※歌の中の一部をリコーダーで吹き、美しい音をそろえる→美しい音色を歌唱に生かす。

※リコーダーのタンギングはお腹で支えて吹く→息づかいや音の高さなど、歌唱とリンクさせる。

※きれいな音色を出す呼吸法を楽器の演奏に生かす。

- ・歌唱の音取りはピアノではなく、フルートの音でオルガンでとるとよい。→母音を伸ばすために
- ・言葉を明確にするのは子音、表情をつくるのは母音。
- ・音高の手助けをするには、鍵盤ハーモニカを使うと持ち運びやすくてよい。
子どもの後ろやそばで吹くようにする。
- ・母音唱でひびきを統一し、つなげる。
- ・４小節のフレーズを続けて歌い、呼吸をコントロールできるようにする。
空気をけちけち使い、貯金する
- ・１番と２番の歌詞を意識し、景色の違いを感じ取らせて歌う。
- ・終止音はつま先に体重をかけ、集中して拍をそろえて切る。
- ・共通教材の歌詞を覚えて、親子３代で歌ってほしい。音を覚えてアカペラで歌えるようにする。
- ・歌う楽しさは、教わってできる楽しさを味わいながら高めていきたい。